



—現代の町内会の現状と課題—

岡山県立岡山操山高等学校 2年 丸山 叶恵・横溝 葵

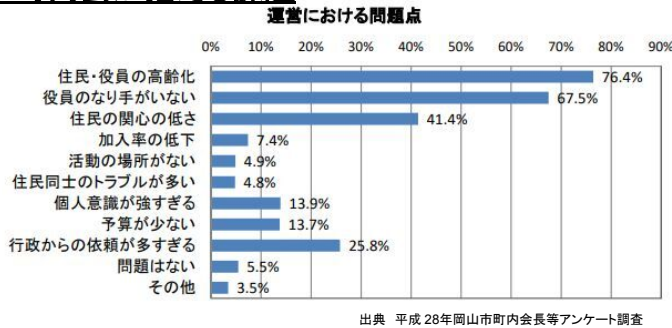
1 研究目的



- 岡山市の町内会加入率が減少している
→全国的に減少している
- 災害時には地域での助け合いが欠かせない
→町内会を続けていく必要がある

岡山市の町内会をもとに理想の町内会を提案し、他の町内会の活性化に活かす

2 町内会が抱える課題



- 新型コロナウイルスの流行による交流の減少
 - 役員の高齢化
 - 若者の関心のなさ
 - 回覧板問題
- など

3 課題解決のために今行われていること

○電子町内会

各町内会がその地域の人々にインターネットを利用して情報を発信する岡山発祥のツール

メリット
いつでもどこでも好きなときに
見ることができる
「コロナ禍で地域交流が減少している」という問題が解消される

デメリット
パソコンを使うのを難しく
感じている人や
高齢者の使用が難しい



○その他の取り組み

<平井学区>

- 地域の病院、学校と連携
- 認知症予防対策「オレンジカフェ平井」
- 健康チェック(物忘れ診断、健康相談)

<高島学区>

- 高島小盛り上げ隊
- 参加できる人が気楽に活動している



田舎＝町内会全体で様々な活動をしている
都会＝町内会活動に若者があまり参加していない
→都会に焦点を当てて理想の町内会をつくる

4 理想の町内会

- 若い世代も参加でき、興味を持ってもらえる町内会
- 地域の人々との交流が多く、災害への備えがしっかりしている町内会

5 具体的な活動内容

- 各町内会で若い世代にアンケートをとり、町内会にやってほしいことや自分たちがやってみたいことなどを聞く
- 年に何度か防災のためのイベントを開き、そこで避難の仕方を学んだり、地域の人との繋がりを強める
- 各町内会で高齢者でも使える連絡用のグループLINEのようなものを作る
- 回覧板と電子町内会のどちらを見るか選べるようにする

6 理想の町内会の防災について

岡山県総社市下原⇨西日本豪雨での犠牲者0人

具体的な取り組み

- 毎年の避難訓練でいくつかの班に分けて行う
- 訓練を夜間に行う、車いすを使うなどの工夫
- 避難経路の確認だけでなく、自家用車を持っていない人が誰の車に乗って避難するかまで決める
- 全戸の世帯人数、要支援者数、実際に避難した人数、ガスの元栓を締めてきたかどうかまで書き込む用紙の作成

7 今後の展望

- より具体的な理想の町内会の活動方針を立てる
- 電子町内会の普及に向けた取り組みを示す

8 参考文献

- 岡山市町内会ハンドブック
<https://www.city.okayama.jp/kurashi/cmsfiles/contents/0000016/16220/handr04.pdf>
- 電子町内会とは／岡山市市民協働局市民協働企画総務課
https://www.soumu.go.jp/main_content/000768904.pdf
- 富山学区連合町内会電子町内会
<http://townweb.e-okayamacity.jp/c-tomiyama/>
- 岡山県総社市下原は、なぜ西日本豪雨で犠牲者ゼロにできたのか文春オンライン
<https://bunshun.jp/articles/-/9228>
- 西日本豪雨の浸水で犠牲ゼロの岡山県総社市下原地区徳島新聞
<https://www.topics.or.jp/articles/-/760756>

9 謝辞

本研究の遂行にあたり、岡山市役所の朝浦様、片山様、平井学区町内会長の那須様には快くインタビューにご協力頂きました。心より感謝申し上げます。

問題点⇨認知度が低く、あまり普及していない